

## 特定非営利活動法人フォーラムひこばえ

キーワード：みんなの広場 多彩なプログラム

活動地域：京都府京都市右京区

### 活動地域概要：

右京区は京都市内西北部に位置し、京都市の区の中では最大の面積。人口約20万人。古くは都の皇族や公家の別荘が点在したが、現在は主として住宅地になっている。当団体の活動地域「宇多野」には、皇室とゆかりの深い仁和寺があるほか、豊かな歴史資源と自然環境にあふれている。



### 団体・活動概要：

造園家の邸宅・邸内を乱開発から守り、福祉など公共のものに役立てたいという故人の意思と遺族からの申し出により、それまで地域福祉に携わってきたメンバーが中心になって日常的に地域住民が集え、くつろげる場作りの必要性について議論を始めました。そして正式に団体を設立し、かつて造園家の設計事務所だった建物を改修して拠点として活用することになりました。邸宅一帯は、歴史と豊かな自然に恵まれた地域です。助成対象活動では、整備した拠点のオープン事業として、子どもの放課後や長期休暇中の余暇を支援する「子どもくらぶ」、食にこだわった「食事会・茶話会」、「教養文化講座」、「各種相談事業」、「地域文庫」など、多彩なプログラムを実施しました。住民主体の安心で安全なまちづくりを促進し、地域福祉の向上に貢献するという団体の目的に向かって大きな一歩を踏み出しました。今後は、プログラムを継続しながら、資金の確保、スタッフの養成など組織力を高め、拠点が長く地域の中に根ざしていけるよう団体の進む方向を見極めていこうとしています。



### 特定非営利活動法人フォーラムひこばえ

設立：2004年 メンバー総数：20名

代表者：理事長 中川勝雄

連絡担当者：事務局長 井上公子

連絡先：〒616-8208 京都府京都市右京区宇多野福王寺町45-2

TEL：075-463-0438

FAX：075-463-0438

E-mail：office@hikobae.org

ホームページ：なし

## 1 団体の目的と経緯

### (1) テーマと目的

NPO法人フォーラムひこばえは、「みんなのひろばフォーラムひこばえ」をテーマに作られました。その目的は 住民主体の安心で安全なまちづくりを促進し、地域福祉の向上に貢献することにあります。地域社会を豊かにすることは、1人ひとりが地域を暮らしやすい場所にしたいと願い、自分にできることから動き始めること。そんな活動を応援するために作られたのがフォーラムひこばえです。

人とひととのつながりが希薄になりつつある中で、子どもからお年より、お父さんやお母さんなどみんなが集える場であること。そして、そこでの事業も住民が担い手となるようにと進めています。



拠点の建物全景



拠点の建物の地図

### (2) 地域の状況や課題・活動に至る経過

#### 土地を得たことで活動が具体化

フォーラムひこばえの拠点のある「宇多野」の地は平安新都造営開始の歴史的なところであり、平安初期に御室仁和寺が創建されて以来、宇多野に数々の寺院や別荘がつくられ、盛衰の歴史を繰り返してきたという歴史があります。周辺には史跡や豊かな

自然に恵まれ風致地区に指定されています。人口動態としては、高度成長期には人口が急増し、地域によっては新住民が7割を占めたところもありますが、現在は高齢化が進んでいます。同時に、少子化傾向ですが若い新規来住者の増加もあり、子育て支援の必要性もあります。生活の上においては、地域的に山林や造園地が多く人口密度が低い

こと、坂や車通行量の多い道路環境、商店や福祉施設も少なく「いいところだが暮らしにくい」と言われる現状にあります。ハード面においては高齢者や子育て世代が孤立しやすい状況にあり、地域住民を中心に、年をとっても豊かで暮らしやすい地域をつくりたいという声があり、活動の拠点となる敷地の存在が活動の具体化をすすめたとも言えます。

拠点となった地は、95年に逝去した、造園家・井上卓之氏が事務所を営まれていた場所で、邸内は緑深く、四季折々に楽しめる樹々や池・小径・灯籠・石などが趣き深く配され、隣接して広がる広場とともに、魅力的な一角となっています。

この環境を乱開発から守り、福祉など公共のものに役立てたいという故人の遺志と遺族からの申し出により、邸宅の一角をお借りして、日常的に地域住民が集え、くつろげる場作りの必要から03年1月に、フォーラムひこばえの前身となったグループが論議を始めました。従来のサービスを提供するかたちの福祉施設ではなく、地域の人たちが能動的に動きながら地域の福祉力を高めていこうとする試みを、拠点を運営する中で行っていかうとするものでした。05年2月には、この活動が社会的に認知される必要性を考え、特定非営利活動法人格を取得しました。拠点の整備については、井上氏の設計事務所であった2階建ての建物を改修し、地域の誰もが集える場所にするべく資金集めを行い、多くの人の力を借りて、寄せられた多額の寄付、借り入れ金により05年4月末、拠点が完成しました。

この活動は立ち上がり期にあります。地域の人々への認知を高めることの基盤整備を重点に取り組みました。初期には、近隣住民、行政機関への周知を図りながら、食事会や茶話会などサロンの利用の取り組みを始めつつ、5月には子どもくらぶを開始しました。



スタッフとボランティアの打合せ

5月時点での来館者はばらばらでしたが、ニーズに応じてお母さん対象の算数教室や、教養文化講座での楽しい企画により、徐々に増えていきました。来館者の増加に伴い住民の企画による教養文化講座なども増えていきました。

## 2 活動の内容

### (1) 活動の特徴・工夫点・苦労した点 ・子どもくらぶ

学童期の子ども達に、放課後を中心に豊かで安心な余暇時間を提供すると同時に、子ども同士、親同士の育ちあいを深めていくことを大切にして企画運営しています。子ども達だけの施設ではないこと、福祉や教育について学ぶ学生ボランティアや地域の大人達が関わり、多くの人々や子ども同士のふれあいの中で、子どもの社会性を育てていくことのできる特徴があります。登録して常時に利用する子どもは17名であり、障がいがあり配慮を必要とする子どもには、個別に支援を要し、当初はそのための体制作りに苦労しました。しかし、地域の退職後の住民ボランティアの活躍、自然や走り回れる空間で子ども達が安心して遊ぶ中で徐々に子ども達同士の関係が成立していき、子ども同士のカも大きく障がいのある子どもも着実に成長をしていきました。親同士の交流も徐々に生まれ、フォーラムひこばえまつりにおいて子どもも保護者も主体的に企画から実施まで行うことができ、その力は祭り成功の原動力ともなり、地域の認知度を高める上で大きく貢献したと言えます。

子どもくらぶのプログラムには、子ども自身の企画、地域の子どもの対象企画以外に、教養文化講座への参加企画など他の取り組みと合同にする工夫を加えることで多彩な内容や、地域の人々との交流となり、そのことが契機となり地域ボランティアの発掘に繋がっています。



拠点開所式 中国笛のコンサート



### ・食事会・茶話会のサロン活動

「おいしく食べる、楽しく作る」ことを中心に、健康への視点、環境への視点、生活への視点を育てるために「食」にこだわり、サロンにキッチンを設置し、食を中心にしたサロン活動をしていることが特徴です。当初は2週間に1回程度の食事会、週に2回程度の茶話会としていましたが、協力者の体制が整わず運営に追われる傾向にありました。こどもくらぶや教養文化講座の事業展開に応じて、その中にサロンの利用を組み入れていく中で、親子おやつ教室、親子クッキング、名画上映と茶話会、食事会つきの健康講座や編み物教室など多彩なサロンの活用形態により世代間・地域住民交流を図ることができていきました。教養文化講座の成果として開催したワイワイイタリアンの食事会では、参加者が幼児から80歳代まで3部に分けるくらいの多人数多世代にわたり、その中で80歳代の方の「幸せや」と言われた笑顔は何よりの成果でした。

### ・教養文化講座

仲間作りを目的とした趣味や教養の講座であり、参加者の主体的な運営を原則とし、職員がスムーズな運営の支援にあたり、講師は地域の方に特技などを活かしてになってもらうなど、住民の主体的な参加型の講座が特徴です。会員や利用者、地域住民からの希望により単発の講座から継続講座へと持続する講座もうまれてきました。地域の生涯教育・高齢者を中心とした余暇支援・文化活動・健康づくり等推進に寄与できました。単発講座、シリーズの講座など



地域住民が集まって食事会

様々であり、現在5件の講座が継続し仲間作りが進み始めています。講座の企画については当施設の自然環境、あたたかい雰囲気、建物の魅力もあり講座開催への希望が徐々に増えています。それだけに、仲間作りを目的とし、主体的運営を原則とするという特徴の理解を図りながら講座開催までの調整、更に講座開催後もどのように連携を取っていくか、利用希望者の要求が多様であり、職員は調整に苦労しています。しかし、その中でアレルギー対応料理教室開催から、アレルギーを持つ親のサークルが結成され会員主体の当事者サークル運営ができています。これは、このサークル運営の中心となる会員がフォーラムひこばえの理解者でもあり、主催者との協力関係に因るものが大きく、講座運営の教訓となっています。

### ・各種相談事業

独自での相談事業は設けることが出来ていませんが、各取り組みの中で、日常的に利用者から子育て、教育、福祉などの相談が寄せられるようになってきました。

### ・地域文庫

木の香り漂う本棚には約500冊以上の寄贈本を置き、自由に本を読むことができる文庫です。毎週定期的子どもに対する読み聞かせの会を設け、地域の小学生の保護者や地域の人がボランティアとして活動しています。

手づくりのミニ劇場や紙芝居はフォーラムひこばえまつりや、地域の取り組みにも参加するなど好評を得ています。多才なボランティアの力の発揮を、事

業全体の中でどのように活かしていくのか、話し合いの努力を大切にしています。

#### ・ちっちゃいくらぶ

元保育士二人が支援に当たり、修学前の子どもと、保護者が集う場所です。子育てについて学んだり、保護者同士の情報交換をしたり、肩の力を抜いて楽しい子育てをしてもらうためのサークルであり、遊びは、たくさんの砂で砂遊び・泥んこ遊び・ボディペイント・リズム体操・紙芝居・みんなで近くの仁和寺等へ散歩・夏には水遊び・広場で虫取りなど、自然環境の良さも活かし、家の中や街中のみではなかなか経験できない遊びを指導してもらいながら、プログラムも保護者と一緒に考え仲間作りをしています。

参加者の情報交換のニーズが強く、活動への参加が受身になりがちでしたが、まつり成功の中で保護者間の交流が強まりプログラム作りへも主体的な関わりが出てきました。

#### ・当事者の会づくり

同種的生活課題(子育てや健康不安、独居などによる閉じこもりなど)を抱えるメンバーを組織化し、当事者同士が悩みを交換しあったり、解決方法を見出すための協議を行い職員がコーディネートを行っています。

### 3 活動の成果

今回助成を受けた活動は、自然豊かな環境の中で、子どもからお年寄りまで誰もが集える場所を作り、年齢や文化をこえて交流し地域の絆を深めることを目的としています。そのことにより、誰もがより豊かな生活を送ることができると考え、この地に地域福祉に関心を持つ大人や子どもがたくさん集うことが、何十年先の豊かな地域を築く礎となることを期

待して進めています。単一事業ではなく、利用者中心に様々な取り組みを緩やかに重ねながらの企画の工夫をしてきました。そのことの成果は、05年12月の第1回フォーラムひこばえまつりに現れていました。フォーラムひこばえまつりは、子どもくらぶ、ちっちゃいくらぶ、教養文化講座、地域文庫などの利用者やボランティア、地域住民が中心になり企画を進め、当日は予想をはるかに超え約400名の参加で大盛況でした。フォーラムひこばえのひろばが老若男女、ひとひとで埋め尽くされ、バザーで掘り出し物を見つけたおかあさん、長蛇の列に並びようやく手にした焼き鳥とビールで大満足のおとうさん、きつねうどんで暖まるおねえさん、たこせん・綿菓子をはおばる子どもたち、共同作業所のパン販売に興味を示す青年、それぞれ仕事におおわらわの80人のスタッフ、ひこばえまつりに参加したすべての人が楽しく過ごしていました。このことから、地域の人々との交流をし地域の絆を深めるといふ当初の目的は達成しているといえます。では、この活動は地域に何をもたらしたのか、その内容も含め以下にまとめます。

#### (1) 拠点を整備した

1) 拠点があることにより、たくさんの力が結集できた。

拠点があることにより、人が集まった。集まることにより、人の輪が少しずつ広がった。そして集まる人にはみなそれぞれ貴重な力を持ち、フォーラムひこばえの事業を進めるための大きな原動力になっている。

#### 2) 地域の中に顔見知りが増えた。

ひこばえを利用してくれる人の中から「道を歩いていて“やあ！”と言える大人や子どもが増えた」という声を聞くようになった。そのことは住みやすい



ちっちゃい子くらぶの様子



教養文化講座  
アレルギー対応ケーキ教室の様子



地域社会の第一歩だと感じる。ひこばえで知り合った大人と子どもが、食卓を囲みながら談笑している場面も見られる。

3) 地域の中にある生活問題をキャッチできることがあった。

地域社会の中に誰もが抱えている、あるいは抱える可能性がある生活問題に触れる場面があった。その問題は、公的な社会福祉制度で解決できるものもあれば、制度の狭間になっているようなものもある。ひこばえでは、人の生活を丸ごととらえる、インテグレーションの立場での支援の可能性を秘めている。

## (2) 組織をつくった

特定非営利法人格を取得し、組織としてフォーラムひこばえの運営を始めることができた。

1) 組織体形については、

走りながら考えている部分もあり改善点も多いのが現状だが、個人の思いや個人の責任ではなく、この法人の趣旨を貫徹していくために協働で汗をかいていく基盤ができた。

2) 場を共有することにより、みんなが「私の大切な場所」としてひこばえに愛着を持ってくれるようになった。大切な場所を共有することにより、人のつながりが強まると感じる。

## 4 活動資金

総収入の内訳は、寄付金 38%・事業収入 38%・助

成金 18%・会費 6%であり、初年度についてはある程度設立時の寄付金に依存せざるをえず、丁寧に基盤整備を進めることとしてきました。助成金については、文部科学省の「地域子ども教室推進事業」の助成金を子どもくらすの活動資金中心にあてています。その他、京都新聞社会福祉事業団から助成金を受けています。貴財団の助成金については、教養文化講座の講師料や活動を支えるボランティアの活動資金、広報活動等に活用し、たちあげ期においては、

より多くの人に活動を認知してもらう大切な取り組みの財源確保として、必要不可欠のものでした。そしてその上に積み上げられたこの実績がなければ、地域への認知もこれほど進まなかったものと思われる。

次年度においては、文科省助成金の継続が決定しましたが、財源問題については大きな課題です。



ひこばえ祭りの様子

## 5 課題

(1) 拠点作りの課題

1) 財源問題のクリア

誰もが集える場所作りをうたいながらも、センターの維持管理、人件費、光熱水費などの関係から、利用料を取らざるを得ない。そのことに対する理解と協力が得られにくいのが現状です。

法人の会計報告を細やかにいき、理解と協力を得る。

センターの維持管理に必要な部分を公的な補助金や助成金でクリアできないか研究する。

採算性の低い地域組織化事業に対する予算を、



お母さん対象の算数教室



他団体主催の子どもと遊ぶリーダーを養成する研修会にてシンポジストを4名派遣

公的なサービス福祉の剰余金でまかなう。

## 2) 地域での生活問題への適切な対応

センターの開設の中でキャッチした地域の生活問題に、関係諸機関と連携しながら適切に対応すること。あるいは新規事業へ結び付けていくこと。さらに、そのための裏づけ調査活動を行うこと。

## (2) 組織確立の課題

### 1) 日常の混乱

法人の立ち上げ期であり、組織形態が確立していないため、日常的に多くの混乱がありました。一つずつ改善していくよう、スタッフや理事、会員間の連携を強めるため、企画委員会も開催しています。しばらく混乱は続くであろうが、やむをえない部分であると考えています。

### 2) 経理、庶務の流れを確立

適切な予算執行や法人の経営状態を可視化するためにも、経理、庶務の組織的な流れを確立していこうと思います。

### 3) 将来設計のための研究

多くの人がかかわるだけに将来像については、ひこばえの目指すものについては確認が必要になってきます。会員、役員、スタッフの研究、研修が必要です。スタッフは事務局の要となり、支援協力者を取りまとめていく重要な位置に存在します。スタッフに要求されるコーディネート力、組織性、社会動向を正しく理解したうえでの計画性は大きいものがあります。スタッフの技術や能力を上げていくための、研修も不可欠です。

## 4) 楽しいひこばえづくりにむけて

みんなが楽しいと思えるひこばえづくりにむけて、去年行ったひこばえ祭りなどの全員参加型の行事を開催していきたいと考えています。

## 6 今後の展望

こうした拠点と組織作りから、地域の生活課題に直接取り組むことができ、少しずつではありますが、着実に地域の人達のつながりが増え、ネットワーク形成に向けて動き始めています。それぞれの事業を方法論として使いながらどのようにして、よりゆたかな地域をつくっていくか、長い時間と、ある程度の採算性とは無関係な取り組みも必要となります。フォーラムひこばえが何を目指していて、将来どうなっていくべきなのかについては、多くの人がかかわれば、かかわるほど、確認しあうことが必要になり、今後、研究・研修を積み重ねながら話し合っていきたいと考えています。

「ひこばえ」とは、草木の切り株から生まれる新芽のことです。ここから新しい地域福祉が芽生えることを願い追求し続けたいと思います。



ちっちゃい子くらぶ 砂遊び



ひこばえ祭り リコーダーコンサート